R2.11.5 第３回推進委員会会議における発言要旨

１．人口減少を抑制するための方策について意見内容

（１）各委員が普段感じていることなど

○介護人材不足への対応で、平成２８年からゴーゴー介護（イベント）を実施。参加生徒たちからは、現場である町内の介護事業の全部を見てもらったことと、まちの中を回り生活に必要な関連施設を見て回ることによって、小さな町で実際にどう暮らしていくかイメージが湧き、良かったと聞いている。心理的なハードルの高いと思われるところを少し下げてあげることが必要と感じている。

○人口増に直ぐに繋がることではないが、農業の作業員や出面さんを確保するため、本別でも１day 農業（バイト）が開始。インターネットを介し、求人農家と働きたい人をマッチングするサービスで、普段は普通に別の仕事をしている方が休日を活用し農業バイトをするもの。これがきっかけで本別を知ってもらう機会となったり、農業を知ってもらう機会となりえる取組のひとつとしてお知らせします。

○建設業ではここ２・３年で外国人労働者が増えてきており、来年また採用する事業もあると聞いている。建設新聞の中では、色々な地域で出前授業が行われている。

○道の駅では、東北部３町が連携した取り組みをしているが、転出を少なくする部分では、小さい頃から近隣の自然を見せるなど地元愛を育んでいくことも良いのでは。例えば小学生がそれぞれの観光スポットを回るなどし、広い意味での地域感を持ってもらうようなことしていってはどうか。

○ゴミ収集の件で赤ちゃんのおむつの収集が週１回と聞いたが少ないと思う。夏場は特につらいことと思うし、子育てしやすさという点では考えるところでは。

○農大学生は圧倒的に農家出身が多く、卒業後８割が実家に帰り、残り２割が進学か就職。就職先では、本別にもないわけではないが、他の町が多い。将来的に農業に携わりたい学生が就職したい時は、法人経営のところが主となり、個人経営のところに就職しづらく、畜産は比較的就職先があるが畑作園芸は受け手が無い。十勝管内では、園芸で受け入れるところは少なく、畑作で常時雇用しているとことがあまりないので、畑作園芸で就農しようとする学生は、数は少ないが道南方面へ研修に行く。町広報に新規就農の記事があったが、もう少し規模が小さく投資の少ない部類があると、本別に残る学生も出てくるかもしれない。

○今、話し合っているような地道な努力というものは重要であるが、どこの町村でも行っていること。抜本的に発想を転換することが必要。例えば、英語教育が始まり、本別高校を卒業した時点で英語が話せるようになる、となれば凄いアピールになると思

う。突拍子のないようだけども、強いリーダーシップのもと本気でそのようなことやろう思えば不可能ではないと思うし、そこから色々波及することもあると思う。
地道な努力は常に必要であるが、ちょっと変わったこと、周りからしてみれば何をしているのだろうというような発想がこれから可能性があるのでは。

○子育てに関して、小さな町であればあるほど、人間関係などの思い出が良くない場合、子どもが引き続き地元にいようという気持ちがあるかどうか、また親も人間関係で嫌な思いをした場合は、自分の子どもを同じような目に合わせたくないという気持ちが出てくるのではと感じている。

○本別高校へ行かなかった町や公務員の家庭で出世や人事で影響があるような雰囲気や風潮でないのか感じている。今までは無かったとしても今後、そういったことがあれば、ここで掲げている、安心・安全で魅力的な地域というのは考えたほうが良いのではと個人的に思っている。

○前回の会議で本別高校出身者に対する支援の話があったが、広い視野を求めて大きな世界へ繰り出していった若者も町出身者として、本別高校と同じ出身者と見るべきで、本別高校出身者だけではなく、本別町出身者として助成のことも考えるべきと思う。人間関係は、根本的なことと思う。何やりました、これやりましたとあっても、根本的にそういうことがあって、それを見てきた人は、何をされても町自体に魅力を感じないと思う。そういうところも見直してみたらどうかと感じる。

○最近、聞いた話で小中学校で一緒のクラスの中で人間関係がこじれてしまったら、果たして高校を本別にするか他の選択肢があるとき、そのまま同じクラスに行かせるのか、悩んでいる保護者もいる。親同士の人間関係でいえば、子育て支援センターの輪に入れない話も聞いたことがある。大人の人間関係だけども、特にお母さんたちが孤立しやすかったり、ネガティブな経験をされた親御さんが、本別から子どもを出したほうが良いという選択肢も理解できるし、そういう親御さんも少なからずいると感じている。

○前委員の高校の先生が高校を選ぶのは自由とおっしゃっていた。本別の子だから絶対に本別高校へということではなく、実際の高校選択は自由で本別から帯広へ、帯広から本別に来られる場合もある。ただ保護者の方の選択として、高校卒業後の進路を想定した学校選びをしていただきたいと話していた。基本的に高校選びは自由、といったところで本別は勝負すべきと思っていて、本別高校へ行かせたい、本別に残りたいと思う雰囲気や風土づくりも必要。

○休みの日に外を歩いたりしても、あまり人と出会うことが少ない。日中の時間帯に若い人と会わない感じがしていて、分析してはいないのでわからないが、本別の若い人がどこへ行っているのだろう？と思うことがある。

○学校の話では、札幌圏では人が多い分ギクシャクするところがあり、殺伐としていたり逆に質が悪い。自由に育っていく環境というよりは、最初からレールに乗っている

人もいれば、自由に出来なくて外れていく環境もあったりするので、ここの環境が悪くはない環境と思っている。例えば、小学校くらいの宿泊研修を呼び込み、姉妹校的なものを沢山つくることで、子どもの頃から本別を知ってもらう。もっと若い世代の頃から呼び込むのもひとつの方法なのでは。

○健康野菜や畜産なども一つ一つとれば良いものがあるのだけどもパーツ・パーツになっている気がするので、それを結びつけていく。ＤＭＯも本別・足寄・陸別だけではなく、もっと色々結びつけていく市町村連携も必要なのでは。それこそ強いリーダーシップで色々なところを巻き込んで、失敗するかもしれないし、凄い時間がかかるかもしれないが、止まってはいられないわけで、今までの少しずつのマイナーチェンジではなく、ひっくり返るくらいの変なことを言う人を集めてくる。町おこし協力隊みたいな凄い人を呼んできて斬新というか、おかしいと思われることをやるのも思いきった選択なのかもしれない。

○具体的に何かをしなければいけない。例えば、住み良い平和な町をつくりましょう、と言っても、それはみんながそう思っていて、それでは何も動かない。具体的なことを何かひとつでもやらないといけない。

○建設業でも農業でも、ＩＣＴやデータを使う状況になってきている。自分の実際の仕事も昔は手作業だったものがパソコンを使うようになってきている。新聞でもどこかの村で企業と提携し環境整備を図っている。本別町もそのようなところに少し力を入れて見てはどうか。

○町内どこでもWifi フリーというのはどうだろうか。少しずつ、コンビニやお店でパスワードや時間制限もあるが使えるようになっている。よその町と同じことをやっても駄目でしょうし、思いきったことをやることが良いと思うし、先ほどの英語教育の話でも、英検を受ける受けないは別としても、例えば会話ができるようにするなど、特化することは魅力的で良いことと思う。

○例えば英語圏から本別に来ている人、身近にいる人に協力いただきながら、公民館や集会所などで簡単な英語を教えてくれるだとか、塾として成り立つようなことではなく、子どもだけではなく大人も含め日常会話的なところからでも英語に触れ合えることができれば楽しいと思う。

○農業に関しても意外と道外からお嫁さんに来ている方も多く、本別や十勝以外の文化もたくさん入ってきている。食文化も全然違っていたり、会話の中で色々な情報が入ってきている。情報も使いようで、発信するほうも受け取る方もどのように活用できるか大切。

（２）イベント事が地域にプラスに働く影響や内容に関する意見等

○イベントを開催することで、直接的に地域への定着につながるということはないと思う。直接関係ではないが、日本一の豆のまちとして取材などで聞かれることが多いが、生産量が日本一でもなく、何が日本一なのか対応に苦慮する時がある。そういうところから頑張っていけば良いと思う。

○イベントもかなり増えてきて、楽しいことが増えてきていると肌で感じる。他の町の方に本別を知ってもらう良い機会と感じる。それを通じてどう定着させていくかは議論が必要。

○イベントを通じて、豆のＰＲ等は行っていると思うが、例えば日本一の大きな鍋を使って振る舞うとかテレビ等が取材しやすいような、消費量、購入量日本一だとか、何か豆を使って日本一に近づけるものを推進していくことで、将来、地域の目玉になるのではないか。

○例えば BCP の観点からも有効と考えるタイニーハウスは普段は色々なところで宿泊ができ、災害時も活用できる。ある程度の個数があれば家が無い状態や長期滞在も可能となるので、町として全面に押し出し、極端にやっていくとかはどうか。豆につながるキャラクターや音楽関係者など色々な方を呼んで、豆を何かしながら泊りがけで、極端なことをやってみるのも良いかもしれない。イベントは、その時は賑わうが終わったら帰ってしまうので、お金も大した落ちてないように見受けられる。

（３）豆のまちに関する意見等

○豆ということでは、ミートビーンズを押しているところが多く、SDGs 観点や日本一の豆の町と言っているのであれば、ミートビーンズをやった方が良いのではないか。例えば、肉祭りで出すとか、ベジタリアンや外国人に、少しでも豆のアピールができると思う。

○肉まつりに関しては、多くのボランティアをいただきながら 7 回開催。本別のアピールのため、お菓子屋さんの豆の搾りかすをドライにしたものを牛に食べさすビーンズビーフをやってみた。それだけの要因ではないと思うが、今までの牛より甘みが増した。近々科学的に調べて数値化できると思う。イベントには町外や遠方から来られる方が多く、町内の他のところも回ってもらうよう道の駅などと連携しているし、公園を会場とすることで本別公園も知ってもらえるし、少しずつであるが、根気よく続けることで、まずは本別を知ってもらえているかと思っている。
○豆のまちと言い続けるのであれば消費も伴わなければならない。例えば町民が毎日、豆を食べる環境や状態をつくり上げていくことも方策。

○農大の圃場でも豆は栽培しているが、多くに種類は作っていない。生徒達からはあまり豆の話題にはならないが、本別の生産種類は多いと思う。生産量そのものより、在来種含め、生豆中心に他では買えない豆が多いことは貴重なこと。

○希少な「くり豆」などは生産が大変で栽培を辞めていく方が増えてきて、生産量が減ってきている現状。高齢化などの次世代問題のこともあるが残念なこと。また本町では、豆を加工する力が弱いと感じている。

○JA では燻製した大豆製品、「だいずくん」のブラックペッパー味が完成しそうで、非常に美味しい。少量で高値感もあるが、是非多くの皆さんに食べていただいて、広めていってほしい。

○豆腐、納豆などの加工製品は食べるが、どう料理して良いかわかならい人も多く、扱いにくい食材と思う。

○調理方法を知っている方でないと豆は難しい。スーパーなどでもドライパックが多いのでは。

○道の駅では、２０～３０代で生豆を購入者される方は珍しい。だいたいが５０代以上の方が購入されていく状況。

○豆は手軽に食べられるような感覚にならないと料理には使用しにくい。小学校３年生に食育の授業があり、煮豆を児童に食べてもらったが、何回もおかわりをし非常に喜んで食べていた。自分たちで作った豆ということもあるが、今まで食べたことがなかっただけであって、美味しいものと感じたはず。知っているか知らないかは大きなことで、どう使って良いかわからない方が多いのであれば、一番簡単な方法で教えていくことも必要では。

（４）人口減少抑制につなげるため直接的効果を高めるための意見

○高校を卒業して帯広へ行くということを考えると、是非、ほかの町村からも入ってきてほしいということで、例えば、１８歳限定、３年間限定ということで、本別から足寄や池田に通えるよう、公共料金を負担するなどの格安で入居者募集というようなことも良いのでは。他の自治体から呼び寄せる特効薬としては、一番は若い人専用の町営住宅を建てるのがベストなのでは。

○仕事柄、高齢の方と接する機会が多いが、高齢者の方も大切であるが、本当に若い方に対して生活が軌道に乗るまでとか、集中的に力を使うことも必要と感じたところ。

○家賃が高いと感じる方が多いと話されていたが、都会なら収入もある程度高く、家賃も高くても割り切れると思うが、この辺の地域である程度の整った住宅に格安に入れるとなれば、本別に住んで近隣へ通うという可能性も無いとは言えない。
どこかに特化した取組や何かをやろうとすると、どこからでも不平不満は出る。しかし思いきったこともしていくことも必要で、今まで通りのことを少しずつ変えたくらいでは進歩しないと思う。